

---

# ゼロ魔で機動戦士

□□□

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ゼロ魔で機動戦士

### 【Zコード】

Z5324P

### 【作者名】

□□□

### 【あらすじ】

手違いで地獄に送られたお詫びに神に能力をもつたオリ主が転生先のハルケギニアで暴れまわる・・・かもしない。

設定など色々おかしなところがあるかもしれませんがご都合主義なので気にしないでください。主人公最強系が苦手な方は注意してください。

## プロローグ

気づいたら見知らぬ場所にいた。

「单刀直入に言おつ」

「誰あんた」

なんか目の前に見知らぬおっさんがいる。

「私は神だ。すまないがこちらの手違いで君を天国ではなく地獄に送ることになってしまった」

「え？・・・つまり俺・・・死んだ？」

「そうだ」

「そんで地獄？」

「そうだ」

「はあ！？ぞけんな！－なぜ死んだ！？記憶にないぞ！？しかも地獄だと！？」

「落ち着け」

「落ち着いてなんかいられるか－！」

「転生させてやる」

「だから落ち着いてなんか・・・え? 転生?」

「やうだ。色々と調整があるため悪いがしばらく地獄で過ごしてもらつ。その代わり転生する際いくつか願いを叶えてやる」

「よひしゃ――――! 地獄でもどこでも行つてやる――――」

死んじゃつたけど超ラッキー！！

— そんなわけでしばらく地獄で頑張ってくれ —

地獄は思つたよりきつかつた・・・一日だけだが気が狂いそうだ・・・

「セヒヂーに転生したい？」

うーん・・・悩むなあ。せつかくの転生だしまじめに考へないとな。

「じゃあ……ゼロの使い魔で

禁書目録もいいと思ったが、あの世界ではどんな能力があつても死にそうな気がする。

「わい、三つ願いを叶えてやる」

「・・・あせじ」

という訳で俺は転生した。

## プロローグ（後書き）

誤字脱字感想等ありましたらよろしくお願いします。  
能力は次話に判明します。

## プロローグその2

さて、神にもらった能力について説明しよう。

一つ目はガンダムのシリーズのMSをオリジナルのGNドライブ搭載で作り出す能力だ。神によると慣れれば色々応用が効くらしい。ちなみにMSはすべて魔力で動くようになつてあり、GNドライブは魔力とGN粒子を生成するようにしてもらつた。理由はもしもディテクトマジックを使われた時に、魔力で動いていないとまずいと思つたからだ。

二つ目は心臓にGNドライブとしての機能を与えもらつた。これによりほぼ無限の魔力を手にしたことになる。そしてGN粒子を圧縮して魔法と組み合わせるなどもできる。こんな能力で体がもつかどうか心配だつたけど、神が何とかしてくれるらしい。

三つ目はおまけみたいなものだが、ずば抜けた身体能力を希望しておいた。

まあ・・・なんと言つか・・・ちよつとふざけすぎたかな? もはや人間じゃない気がする。でもこのくらいないと生きていく自信がない。

といつ訳で、この能力で俺はゼロ魔の世界を生き抜いて見せる! -!

## プロローグその2（後書き）

能力について設定がおかしいかもしませんが、都合主義ですので  
気にしないでください。

## 第一話 最強になまだまだ程遠い

転生して5年。なんと俺はグラモン家に転生した。名前はノエル。ノエル・ド・グラモン。ギーシュの双子の兄と言つ設定らしい。神によると姿はグラハム・エーカーらしいが、5歳の顔じゃまだわからない。何にせよイケメンしてくれてありがとう!!

「父上、本当に魔法を教えてもらえるのですか？」

「ああ、そろそろ教えてもいい頃だからな」

「よししゃ――――――ついに来たぜ――――――」の口をどれだけ心待ちにしていたことが!!

「ノエル、ギーシュ。杖を持つて外で待つていなさい」

「「はい」」

「ノエル、この石にレビューションをかけてみなさい

よしー一発で成功させてやるーー

「レビューションーー」

・・・・・何も起こらない。

まあ、最初はそんなもんだ。次、ギーシュがやつてみなさい

「はい！」

元気いいなあギーショ。

卷之三

まあ・・・ギー・シユだし・・・成功するわけ・・・ええつ!?!?

「おつがいじめられてもや...」

「レジト――ショノ――――――！」

石が浮いた――――――――――

「父上！成功しました！！」

「ああ、お前も死へやつたー。」

めぐらしがち———！

「よし、次は鍊金だ。ノール、やつてみなさい。」

「はい」

結局鍊金ができるようになるまでやられた。

「今日はこれからここで練習をします。」

俺はまだ続ける……でもギーシュが精神力切れでへばつてゐから今日は終わりか。

「父上、僕はもう少しだけ修行します」

能力をためしたい。

「別にかまわぬが、無理はするなよ

「はい」

父上はギーシュを抱え去つて行つた。よし始めよう。

「つて言つてもいいやるんだ?」

普通に念じればいいのかな?としあえずエクシア作るか・・・

「出で来い！エクシア！！」

シーン・・・何も起きない。

おかしいな・・・魔力とか必要なのかな?とりあえず杖に魔力を込  
め地面に向ける。そして・・・

「エクシア！-！」

! ! !

やっぱ魔力が必要だつたらしい。

「… でもなんか小さにな…」

どう考へてもガントムにてサイズじゃない。そこらへんの大人くら  
いのサイズしかない。

「おかしいな、ありつたけの魔力を始めたのに・・・」

「これじゃエッチな力アスた。」  
いや俺トシトだけども、底なしの魔力あるのに。

「ちゃんと手順を踏んでレベルアップしないことかな・・・」

まあ、いいか。いきなり最強じやつまらないしな。

で、今田せりのへりこにしき壁ぬれか。

## 第一話 僕も暇じゃない

俺こと、ノエル・ド・グラモン、16歳は、今まさに魔法学院へと足を踏み入れようとしていた。

俺は今まで毎日修行ばっかしていた。おかげで土のトライアングル、水と火のラインになつた。三つの系統が使えるのはすごいと思うが、個人的には使える系統が増えるより早くスクウェアになりたいのだが、なかなかスクウェアになれない。まあ、そのうちなれるだろう。父に頼み剣の修行をつけてもらつたので近接戦闘もできる。そしてこれが一番重要なのが、能力を使いこなせるようになった。これで原作介入しても死なないはず！！

「ギーシュ、俺は部屋に行つて荷物の整理するけど、お前はどうする？」

「決まつてゐるじゃないか。女の子に話しかけてくるよ

ギーシュ・・・お前の頭の中にはそれしかないのか？

「そうか・・・まあいい。じゃ、また後でな」

「やつと終わった・・・」

荷物の整理がようやく終わった。

この後は確かに入学式的なものがあつたがめんどこのでサボるわ。うん、そうじよひ。

「ふああああ……ねむ……」

眠りこなして起きた。

次の日

入学式をサボつたことは眞合が悪かつたと言つてじいまかしちやつた。テヘッ

まあ、そんなことより、俺はソーンのクラスになつたらしい。そんで今その教室に足尾踏み入れようとしているところだ。

「…………」

な、なんか今赤い髪の女の子と青い髪の女の子を見かけた気がしたんだが……気のせいだよな？

「…………チラシ」

「…………」

き、気のせいじゃねえ！キユルケとタバサだ！よっしゃ————！

！ルイズと一緒にやなくてよかつた――――――――――――――――――――――

とまあ、最初の授業が始まったわけだが・・・超つまんねえ・・・「モンマジックなんて誰でもできるわ――！」

もづい・・・寝よう。

「・・・・・ビクウツ！」

授業が終わり教室を出る際にキュルケに流し目を送られた。

あ、あれは捕食者の目だ・・・お、恐ろしい・・・

そんな風によそ見してたら誰かにぶつかってしまった。

「おーーーお前ーーー」

「何？」

「何？じゃない！人にぶつかっておこてすみませんの一言も言えないのか！」

金髪マッシュュヘアーの少年がなんか突っかかってきた。

「ああ、悪かった謝るごめん。じゃ、バイバイ」

俺も暇じゃないからね。素直に謝りておこなわせつた。

「君は僕をなめているのかー！」

「なめてないよ」

「こいつこいつこな。素直に謝りてやつたのこ。

「どうやら君は僕を怒らせてしまったようだ

「はあ？」

なんかやな予感・・・

「決闘だ！！」

やめやめ。

「結構良く集まってくれたー今からこの僕がこの無礼な金髪を成敗す  
るー。」

「結構良く集まつてくれるー今からこの僕がこの無礼な金髪を成敗す  
るー。」

「僕はマルコ。マルコ・ド・アレクサンドルだ」

「あー、俺はノエル。ノエル・ド・グラモンだ。やるならさつないと

「せうせ」始めよ

「九月八日」

と語り、マジシユは何やらかつしつけて詠唱始めた。

「・・・・えいつー！」

「ぐげうべふあーーーー！」

詠唱が馬鹿みたいに遅いので、飛び膝蹴りをかましてやつた。

「・・・は、鼻が・・・」

「さっきまでの威勢はどうした？俺はまだ杖を抜いてすらいないぞ？」

ГЛАВА · · ·

また呪文を唱えようとしたので、杖を抜いて顔に突きつけてやった。

「ま、待ってくれ！い、命だけはたすけ」「えい！・・・・・」

首筋に一撃をいれ氣絶させた。

あーまつたく、貴重な時間を無駄にしちまつたぜ。

部屋に戻る途中、背中に妙な視線を感じたので振り返ると・・・

そこには捕食者がいた。

「や、やあミス・ツェルブスター、な、何か用かい？」

「私の事を知っているの？うれしいわ。キュルケとお呼びになつて

「わ、わかった。そ、それで何か用？」

「実はさつきの決闘を見てい、「あつ！あーつーき、急用を思い出した！それじゃキュルケ！またこんど！」

まずいぞこれは！田をつけられてしまつた！

「あつお待ちになつて！」

つかまつたら食われる！何としても逃げなければ・・・

こんな感じで、俺の授業初日は終わった。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5324p/>

---

ゼロ魔で機動戦士

2010年12月21日16時37分発行